

事業区分	文化芸術事業	育成・創造事業					
事業名	鳥取県クラシックアーティスト・オーディション【エントリー】 弦楽器・ピアノ 公開レッスン						
目的・内容	平成27年度実施予定オーディションに先立ち、“エントリー事業”を実施することにより、オーディションが若いアーティストの一つの目標・自己研鑽の場となるよう、アプローチしやすい事業を実施する。すそ野の拡大を図りながらオーディション全体の質の向上、レベルアップ、アーティスト同士の繋がり・連携を図り、鳥取県のクラシック音楽の活性化に寄与する事業となることを目的とする。 監修/NHK交響楽団						
実施内容 開催日時	実施内容:H27オーディション対象部門(ピアノ、弦楽器)・対象者への公開レッスン <弦楽器部門> ・開催日時 平成27年1月12日(月・祝) 10:00~16:00 ・受講生 9名、聴講生 50名 <ピアノ部門> ・開催日時 平成27年1月18日(日) 10:00~16:00 ・受講生 5名、聴講生 16名						
会場	<弦楽器部門>とりぎん文化会館 リハーサル室、第3練習室、第4練習室 <ピアノ部門>とりぎん文化会館 小ホール						
参加料	受講生:3,000円 聴講生:1,500円						
実施状況	受講生	14名 (弦楽器部門 9名、ピアノ部門 5名)					
	入場者数	-	設定席数	-	集客率	-	
事業費状況	予算額	収入	60,000	支出	3,359,000	収支比率	1.8%
	決算額	収入	103,500	支出	2,367,033	収支比率	4.4%
参加者アンケート (主なもの) 回答者数33枚	<ul style="list-style-type: none"> 音の出し方や指など基本的なことを丁寧に教えていただけてとても良かった。 疑問に思っていた点が解決できたり、練習方法などをわかりやすく丁寧に教えて下さったので、もう一度練習の仕方などを考え直して取り組もうと思いました。 曲を弾く前にその作曲家のことや形式、主題を分かって弾くことが大切だと改めて思った。 もっと曲のイメージを作りたいなどと思いました。 方向が間違っていたことが分かったので、もっと自分の手に入るように指づかいの研究をしようと思いました。強弱、色合いの落差を付けたいと思います。先生の音色に目が覚めました。 						
1次評価 (内部)	<ul style="list-style-type: none"> プロで活躍される講師の方の指導を直接受けることができ、受講生にとって貴重な学びの場となった。受講生のみならず、プロで活躍される講師の熱心な指導を見ることで、聴講生として参加していた指導者たちにもよい刺激となった。 過去のオーディション受賞者をアシスタントとして招き、レッスン後にミニコンサートを行うことで、来年度オーディションの参加資格を持った受講生たちの参加意欲を高めることができた。特に弦楽器部門では、講師(NHK交響楽団オーケストラメンバー)とオーディション受賞者によるアンサンブルを間近で聴くことができ、受講生・聴講生にとって有益な時間であった。また、若手アーティスト同士のつながりの場を提供することで、それぞれが連携して地域活性化していく上でのコミュニティ作りの一助となれた。ピアノ部門では、講師、アシスタントと受講生が昼食を共にし交流の場を提供できた。 アンケートには、本事業の継続やさらに若年層へ展開を希望する声もあり、本事業の価値を見出すことができた。一方、受講生のレッスン中の態度やレッスンに向かう姿勢に対し不満の声があり、アプローチしやすい事業とはいえ、一定レベルの教養のある受講生を選定する必要があると感じる。 県内関係者と話をすることで、県内ピアノ・弦楽器の状況を知ることができ、今後の事業展開に活かすことのできる材料を入手できた。 今までオーディション受賞者から受賞後、意見を聞く場がなく、今回このエントリー事業を機に鳥取県へ対する熱い思いを聞くことができた。財団としてこの思いを汲み取りどのように対応していくかが今後の課題である。 						
2次評価 (財団評議員)	<p>[事業概要・プロセス]</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象者を若手演奏家者しているが、演奏者と地域の指導者とした方が、事業内容とも合っていると思う。 今までのクラシックオーディションで初めての取り組みとして、大変意義のある事業であると考えている。オーディションに参加希望する方にとって、一流の講師から指導を受け、オーディションに臨めるものであり、よい企画であると考えている。また、一人の参加希望者の指導だけでなく、参加者全員の指導を聴くことができたので、オーディション参加希望者だけでなく、聴講生や指導者にとっても大変価値のある事業だと考える。 NHK交響楽団の監修を受けることにより、本財団との有機的なつながりのもと進めることができていると考えている。アシスタントとして、オーディション受賞者を招くことは、受講生にとっても、アシスタントとして参加するオーディション受賞者にとっても、レッスンが学びの場となるだけでなく、連携が図れ、今後の本オーディションの裾野の広がりを期待させるものとなると思う。 <p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際のアンケートからは、具体的内容が見えてくる。私も感じたことだが、講師の指導の観点の幅広さ、それによって、それぞれの受講生がどんどん変わっていくこと、理解できない受講生にはまた異なるヒントを与えるなどとても良かった。聴講していた指導者の方に、今後の指導への向かい方に、大いに示唆を与える会だったのではないかと。 講師の先生の熱心な指導に接し、受講生だけでなく、聴講生や指導者にとってもたいへんな刺激となったものと感じる。本事業の振り返りの一つとして、専門批評家や有識者の意見は、この事業だけでなく、オーディションも聴いていただき、意見を求めた方がよいのではないかと考える。 <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> 弦の受講者が募集に対して少なかったが、現状把握不足か？ アンケートを受講生と聴講生の合計数で処理するのはと思われる。弦の方の回収率が悪そうであるがなぜか。ピアノと弦をわけて評価しないのはなぜか？ 受賞者をアシスタント？ 見学、演奏させたのは受賞者にとって良い刺激だと思う。受講者の刺激にするには、もう少し何かがいるのではないかと。 今後は、受講生を小学生に下げたり、受講者審査をしたりするより、事業の目標を人材育成のための指導者育成をも含めた方がよいと思う。受けた刺激を素に、自ら勉強し続ける指導者が増えたら、子どもたちのための基礎指導も技術に片寄らないものになるとと思われる。受賞者はアシスタントなのか、ゲストなのか分かりづらかった。その取り扱いをより魅力的にした方がよい。 						
今後の対応、 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> アンケートより受講生のレッスンに向かう姿勢に意見があったことから、公開レッスンの主旨、レッスンに向かう上でのアドバイスや当日の服装などについても(当たり前のことではあるが)周知が必要である。 より近くで話のできる環境(受賞者の対談や交流会など)をレッスンとは別に設定することで、さらに若手アーティスト同士のつながりを創出することができると感じる。 過去のオーディション受賞者には、全国的に活躍され、鳥取県への強い思いをお持ちの方も多く、意見交換が必要である。鳥取県出身で全国トップクラスのアーティストの意見を聞き取ることができるのは貴重。また、弦楽器に関しては、若手指導者が少なく、後進の育成ができていない状況にある。今回使ったネットワークや入手した情報をもとにオーディションとは別に育成プログラムが必要ではないだろうか。 						